

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373600168		
法人名	社会福祉法人サンライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル江南		
所在地	愛知県江南市河野町五十間24番		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;ligosyoCd=2373600168-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;ligosyoCd=2373600168-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユニバーサルリンク
所在地	〒463-0035 愛知県名古屋市中区山崎森孝3-1010
訪問調査日	平成24年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所前・入所後のアセスメントに力を入れ、利用者様一人一人の個性やこだわり、習慣を継続できるよう支援しています。また、日常のつぶやきを拾い上げ対応することで、その人の希望や願いを理解するよう努めています。職員一同、「自分が利用したいと思う施設」を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して11年目になるが、開設時に家族と職員で共に作成した事業所独自の理念、“「安心」「自由」「尊厳」「歓び」を家庭的な雰囲気の中で営めるよう自立支援を行い、共に学び合っています”を入居者の介護の拠りどころとしている。法人内の人事異動も極力減らすように配慮し入居者が日々穏やかに生活ができるよう支援している。法人が発掘した温泉を使用して入居者が毎日入浴出来るように配慮している。江南、小牧、犬山三市のグループホーム間で互いに見学会を開催し交流を深めている。最近グループホームも近隣住民に認知され、入居者がエスケープ時、慌てて後を追う職員に自転車と携帯電話の申し出があり拝借して、事なきを得ることができた。職員の日々の努力が近隣住民に浸透しつつある証である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とグループホーム創立時からの独自の理念を毎朝唱和し、職員が目標として業務にあたっている。	法人の理念と、開設当初に家族と職員によって作成された事業所独自の理念を毎朝唱和している。月2回のワーカー会議やハウスマネージャーとの年2回の個人面談などで認知症の理解を深め、理念を目標に、具体的に介護に反映されるように話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の買い出しや日用品の買い物などに出かける機会を持ち、自然に生活行為として交流出来るよう支援している。	開設当初は区長から疎まれることもあったが、最近は関係は良くなっている。地域包括の力を借りて、事業所内の見学会を行っている。町内会の回覧板で見学会などの案内のお知らせをしている。毎年近くの小学校の5年生と交流会を持ち、一緒に作品を作ったり、給食をいただくなど関係を深めている。こども110番も受託している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて情報発信はしているが、活かすまでは至っていない。今後の目標としたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の参加が少なく、今年度呼びかけをしたところである。会議の報告から出た意見について可能な限り取り組んでいきたいが、参加者からの意見が少ないのが悩みである。	年6回、地域代表、北部地域包括支援センター、市高齢者いきがい課、利用者代表、家族代表、管理責任者等が参加して開催している。報告事項は、事故報告、行事報告、検討事項、つぶやき報告、医療対策、外部評価の報告などが議題である。参加者からの意見は少ないが、家族とは面会など来所時に話し合う機会が多く、問題はその都度対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市からの情報提供や事故が発生した場合の報告、運営推進会議の報告をしており、情報の共有に努めている。	市の担当課には運営推進会議の報告、事故の発生の報告を、担当課からはファックスや電話で情報を送ってもらい、市との連携を深める努力をしている。市主催の"徘徊模擬訓練の案内"を地域包括職員から連絡をうけ、ハウスマネージャーも訓練に参加をし、'チラシ配り'を体験した。この訓練には2回参加しており地域包括との情報の共有にも努めている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ハウスマネージャーが、「身体拘束廃止推進委員」の研修を受講しており、職員に指導している。玄関にはセンサーチャイムが設置しており、利用者様や家族・外来者が自由に入出入り出来る様 夜間以外は施錠していない。	入居者は入居時には自立していて介護度は平均2.2であり、きめ細かいケアができています。ハウスマネージャーは職員のミスにはすぐに呼び注意して、その後のケアに結びつくように指導している。玄関は夜間は防犯のため施錠しているが日中は開錠し、家族や来所者に開放している。入居者の徘徊にはセンサーチャイムで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	処遇マナーについての勉強会の中で、虐待に関する指導をしており、職員が自己の振り返りが出来る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実施出来ていない。来年度は年間の教育計画に組み込んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所持に説明をしており、入所後も面会時などにコミュニケーションを図るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やカンファレンスの際に意見を聞いている。また、満足度調査を年2回行い施設運営に反映させている。	年2回家族向けの満足度調査を実施したり、入居者の'つぶやき'を拾い上げ、それらを事業所の運営に反映させられるように会議で話し合っている。玄関には'つぶやき'を集約し掲示もしている。家族向けのグループホーム便りを毎月発行し「〇様の家族様へ」の欄を作り、入居者毎の日常を連絡、報告している。家族からの苦情にも出来る限り対応している。	家族会は家族の都合もあり、現在はまだ設立には至っていない。今後家族との話し合いを進め家族同士が参加できる場を提供する検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回のワーカー会議にて意見を聞き、業務改善やケアの向上につなげている。	月2回のワーカー会議は職員に紙面で意見やきずきを提出してもらい、それらを基に話し合い、業務の改善やケアの向上に繋げるようにしている。出席出来ない職員は会議録で内容を共有している。ハウスマネージャーは年2回、全職員と個別面談を行い、意見、相談を取り上げ、職員の向上心に繋がるように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	母体施設とともに月1回衛生委員会を開き、職場環境改善について現状報告し意見交換・改善提案している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間3回の面談で、各職員から個別の目標への進捗と振り返りを行う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム運営協議会に所属し、2か月に1回意見交換や勉強会を開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを利用する前には、本人との面接を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する前に、事業所を見学していただき、在宅での生活の様子などを聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に他のサービスを利用していればその事業y祖の職員やケアマネージャーと連r無くをとり、情報交換を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の通り、利用者様の尊厳を尊重し、人生の先輩として接するよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所の行事や利用者様の誕生日に、家族も参加できるよう呼びかけを行っている。外出にも協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出や美容院、買い物などでなじみの場所へ出かけている。	個別外出はホーム便りに日時を発表し、月1回の外出支援をしている。美容院、喫茶店、花屋さんなど、馴染みの場所に行けるよう努めている。近くに馴染みの無い入居者には近くにある喫茶店などを開拓して楽しんでもらえるようにしている。花屋さんではフラワーアレンジメントを習い、テーブルを飾るなど、入居者に喜んでもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席や外出時のバスの座席に配慮している。孤立しないよう、利用者様同士でくつろげる場所作っている。入浴では仲の良い方同士は入れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、法人内の施設に転居された場合は定期的に様子伺いしている。入院の場合は定期的に病院へ様子伺いに行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ワーカー会議で利用者様個々について話し合う(情報共有する)場を設けている。	職員は担当制で普通は2名を担当するが、1名の場合もある。日常生活で会話やひとり言、表情、つぶやきなどを気付くように、常に見守りや耳をかたむける姿勢を持ち、思いや意向の把握に努めている。独自開発の端末を常時携帯して記録し、職員全員が情報を共有している。家族が入居者のひとり言を職員に伝えすぐに対応することには対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前情報を入力し、生活状況やこだわりなどについて把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録を記入し、毎日の状況把握を行っている。また、PC上の伝言板を利用し職員間の情報共有も行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員とケアマネージャー、ハウスマネージャーでモニタリングを行いケアの評価・提案をしている。	三カ月に1回、ケアマネージャー、ハウスマネージャー、担当職員でモニタリングを行い評価している。家族には介護計画を提案し、一緒に見直し、介護計画の作成に参加してもらっている。入居者に変化がみられたときは必要に応じて随時に変更し、その人らしい暮らしが継続できるように支援している。年に1回は計画を一から見直しをしてケアに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤職員がそれぞれ個人の記録を行い情報共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの生活が困難になった場合には、同一法人の施設へ転居できる体制が整っている。身体レベルや認知症が進行してきた段階で家族と相談を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の花屋へフラワーアレンジメントに出かけたり、社会福祉協議会が主催する押し花教室へ定期的に参加している。また、地域住民の畑へ野菜の収穫に出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力のもと、かかりつけ医に受診ができています。	かかりつけ医の受診はご家族の協力で同行していただき実現できている。時には職員が同行することもある。かかりつけ医に入居者の情報を伝え、診察結果も把握するなど情報交換に努め、より良いケアに繋げる努力をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制加算の実施により、併設特養の看護師にて対応できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、グループホームでの様子を伝えたり退院に向けての情報交換など行っている。退院後グループホームでの受け入れが困難になった場合も病院のケースワーカーと直接相談し受け入れ先についても検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化における指針について説明を行い同意を得ている。終末期のターミナルケア（看取り）は行っていない。	入居時に重度化や終末期の対応についてホームの指針を説明して同意を得ている。同一法人の施設等との連携もあり、ご家族の将来的な不安を解消し安心していただけるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しており、定期的に職員間で読み合わせをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練の計画を立てて実施している。また、法人内施設で合同避難訓練を年1回行っている。	同一法人施設と協力体制ができている。年2回入居者も参加する避難訓練を実施している。同一法人施設との合同訓練には地域の方にもご参加いただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレ誘導の声掛けなどプライバシーに配慮して行っている。また、職員のマナー勉強会と自己評価を定期的に行っている。	ご本人の気持ちを最大限に配慮し、さりげないケア・お声がけに取り組んでいる。入居前の情報をしっかりと把握することが重要と考えており、その情報をもとにケアを実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、飲み物、余暇活動、外出など常に利用者様が選択できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間、入浴の時間など出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、身だしなみの声掛けを行っている。外出の際には、女性は髪を結んだり、化粧するなどの支援もしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、利用者様の能力に応じて食事の準備や片付け、食材の買出などに職員と一緒に参加している。	入居者の能力を活かしながら食事の準備や片付けを行っている。メニューに関して入居者の意見を聞きながら反映している。管理栄養士がチェックし栄養バランスにも配慮している。畑で栽培した野菜を収穫し食べることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の要望を取り入れながら職員が献立を立てている。1週間分をまとめて管理栄養士にチェックしてもらい栄養バランスの助言を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいの声掛けを行い、必要な方は居室に同行し動作を見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄の促しや介助を行っている。	入居者それぞれの状態をしっかりと把握して対応している。排泄パターンをチェックし、ケース会議で変化を話し合い、チーム全体で情報を共有している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維を多く含む食材や腸内環境がよくなる食品を毎日摂れるようメニューに配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っており、利用者様のその日の希望に合わせて入るため特に順番は決めていない。	天然温泉のお風呂に入ることができ、入居者の希望や状態を把握しながら楽しんで入っていたり努力をしている。入浴を好まない入居者に対しても様々な工夫をして無理強いせずに入浴していただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活性化を図っており、夜間は比較的良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様に取り一人の処方箋はファイルに綴じてあり、すぐに確認が出来るようになっている。服薬はミスがないようにマニュアルを整備している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴を把握した上で役割を持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間で計画を立て外出を実施している。	月に1回は個別外出レクを行っており、入居者の希望を常日ごろから把握できるようにコミュニケーションを取っている。時にはその当日に決めて外出することもあり、少しでも希望にかなうよう努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材の買い出しに行った際や個別外出の際に利用者様の能力に応じ自分の財布から支払いする支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話することはないが、手紙を出す際は代筆や郵便局への付き添い等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、花を飾ったり季節が分かるようなしつらえを心がけている。また、職員の歩く足音に配慮している。	季節を感じる飾り付けなど工夫し、明るいいりビングで入居者はゆったりとくつろいでいる。職員はどれだけ急いでいてもバタバタと足音を立てることは避け、入居者に不安を与えないように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭を眺めることが出来るソファや畳コーナーなどゆったりとくつろげる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具や衣類などすべて自宅で使い慣れたものを持ち込んで使用してもらっている。	朝食後には入居者それぞれが自分の居室を掃除する日課になっており、なかなか自身では掃除ができない方にも職員が支援して掃除に参加してもらって、居心地よく過ごせるようにみんなで清潔な居室を保つ努力をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室を覚えられない方には名前の張り紙をするなどの工夫をしている。居室内には洗面台があり、自分で身だしなみを整えることが出来る。		